

国語 第6学年 天地の文

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる。学習の記録は、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録である。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)ア	ア 親しみやすい古文や漢文，近代以降の文語調の文章を音読するなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)イ	イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して，昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

単元の目標

近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（〔知識及び技能〕(3)ア）

昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア）	①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。	①昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全1時間（知・技1）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○教材と学習に使う言葉を確認め、問いについて今の考えを話す。教科書の文語調の文章を教師の範読に合わせて音読する。意味を確認める必要のある語を解説で確認し、響きや調子と浮かぶ様子を話す。読み方を試し、言葉のまとまりを確認める。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。	知①（発言・活動中の記録・作成物）



本時の案

本時の目標：近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。
 （〔知識及び技能〕(3)ア）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」 【めあて】昔の文章のものの見方に触れ、表現と内容を今の自分の見方と比べる。 〈予想される児童の反応〉 ・今と違う言い方でも、読んでいると調子を感じる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」 教科書の文語調の文章を教師の範読に合わせて音読する。意味を確認する必要がある語を解説で確認し、響きや調子と浮かぶ様子を話す。読み方を試し、言葉のまとまりを確認する。 対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 〈予想される児童の反応〉 ・今と違う言い方でも、読んでいると調子を感じる。 ・言葉の意味を知ると様子を想像しやすい。	文語の意味が分からず止まる箇所は教材の解説で補い、まとまりごとの音読へ戻す。暗記できた量より、響きや調子を味わいながら読んでいる姿を捉える。 想定する難しさ：意味や調子を確認せず、暗唱の速さだけを競う。 評価では、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいるかを、意味を確認した語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎知① 近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 意味を確認した語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認する。 〈予想される児童の反応〉 ・言葉の意味を知ると様子を想像しやすい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認する。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「この文章は、身の回りの世界をどのように捉えていますか」。中央は、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

意味や調子を確かめず、暗唱の速さだけを競う。この難しさには、文語の意味が分からず止まる箇所は教材の解説で補い、まとまりごとの音読へ戻す。暗記できた量より、響きや調子を味わいながら読んでいる姿を捉える。評価では、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいるかを、意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録 意味を確かめた語、響きや調子を感じた箇所、読み方の記録を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。
比べて確かめたこと 最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（6年）「6年」62行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

